

令和元年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 3 - 3
事務事業名	側溝清掃事業			担当課係	都市整備課
総合計画上の位置付け	政策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		記入担当者	森谷 晃
	基本目標	2. 快適な暮らしづくり		内線等	227
	施策	2-1 快適な生活・都市基盤の整備		E-mail	toshiseibi@city.komatsushima.lg.jp
	基本方針	2-1-1 道路・交通網の整備			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	經常事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	3 道路橋梁費
	目	2	道路橋梁維持	事業	4 側溝清掃事業
開始年度	-		年度	根拠法令・要綱等	道路法

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 市道側溝等の清掃を実施し、排水機能を確保する。
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 堆積土砂の除去及び繁茂している水草の清掃を実施することによって、側溝本来の排水機能を確保し、浸水被害の軽減を図る。
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 土砂の堆積状況を調査し、側溝断面の1/3程度の土砂が堆積している箇所や水草が繁茂し通水を阻害している水路などについて順位をつけて、清掃業務を実施する。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 平成26年度までは市の環境衛生センターが清掃を実施していたが、平成27年度より市道側溝等については道路管理者である都市整備課が清掃等を実施し、維持管理することとなった。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果
	清掃箇所			清掃を実施した箇所				
	単位	H30	R1	R2	R3	目標年度 目標値		
	箇所	20	20	20	20	R4 20		
	実績	31	23					
	達成度	155.0%	115.0%					

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H30	R1	R2	R3	指標の説明
	清掃箇所	計画	箇所	20	20	20	20	
		実績		31	23			
		計画						
		実績						
		計画						
		実績						

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		H30年度決算	R1年度決算	R1年度予算	R2年度予算
		全体コスト	A 直接事業費	14,191,024	14,245,460
関連事業費	財源内訳	国県支出金			
		地方債			
		利用者負担			
		一般財源	14,191,024	14,245,460	
	B 人件費 ①×②	3,409,404	2,232,803		
	職員平均人件費①	4,261,755	3,189,719		
	従事した割合② 人	0.80	0.70		
	A + B	17,600,428	16,478,263		
単位コスト	活動指標の説明		側溝清掃箇所	側溝清掃箇所	備考
	活動指標1 単位当たりコスト	567,756	716,446		平成30年4月1日現在 人口38,156人 平成31年4月1日現在 人口37,795人
	市民一人あたりのコスト	461	436		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 用水路や排水路については水利組合や地元の協議会、自治会等で清掃を行ってきたが、昨今では機能していない地域も出てきている。また、清掃実施後に再度土砂や汚泥が溜まったり草が繁茂するといった現状があり、側溝の構造的な補修や改修を行わなければ解決しない箇所も出てきている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 市道側溝以外にも、用水路や排水路、また、私有地箇所の側溝においての清掃を望む声も多くなっている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	道路機能維持や浸水被害軽減・防止は市民が安全・安心に暮らせるまちづくりの一環として必要不可欠なものである。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	市道側溝に関しては、道路管理者である市が清掃を実施することが妥当であると考えられる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	側溝調査は市が行い、直接の清掃業務は業者に委託していることから、どちらかといえば効率的である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	側溝等への土砂・汚泥の堆積や水草の繁茂による排水性の低下は、浸水被害の要因となるため、継続して事業を行っていく必要がある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	市道側溝や水路等において、流下能力の回復が見られるなど、一定の成果を上げている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	側溝清掃箇所の調査・業者への手配・清掃が実施されるまで一定の期間を要しており、今後は実施までの期間を短縮できるよう効率よく業務を進めていく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評 価	2	1 拡 充 す る	80 点 以上	評 価 点 に よ る 判 定	2	判 定 に 至 っ た 理 由	市民からの要望が多く、事業自体の必要性の高さや、排水能力の回復など成果が上げられている。このことから今後も引き続き事業を継続することと判断する。		
		2 現 状 の ま ま 継 続 す る	60 ~ 79 点						
		3 改 善 ・ 効 率 化 し 継 続	40 ~ 59 点					評 価 点	66
		4 終 期 設 定 し 終 了	20 ~ 39 点						
		5 完 了 ・ 休 止 ・ 廃 止	19 点 以下						

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評 価	2	1 拡 充 す る	判 定 説 明	低平地が広がり河川が多い本市においては、浸水被害対策で本事業は重要であることから、今後も事業を継続することと判断する。
		2 現 状 の ま ま 継 続 す る		
		3 改 善 ・ 効 率 化 し 継 続		
		4 終 期 設 定 し 終 了		
		5 完 了 ・ 休 止 ・ 廃 止		